



## 東京支部見学会記

秋季見学会として、佐藤支部長や国鉄内浴友会員の御骨折りによる神奈川県営相模発電所見学会が例年どおりの好天に恵まれた十一月三日に行なわれた。

三時頃再び発電所前に待たせてあるバスに乗り近くの国鉄中央線与瀬駅に寄つて国鉄で御世話下さった名物甲州ぶどう一籠宛が会員に配られ、心地よく疲れたからだをロマンスシートに沈めて秋の夕陽を背に帰路についた。（東京電力 本村 鳴

東京電力は神奈川県との契約に基いて、この発電所を系統結合する。波数の時々刻々の調整に大いに活用しているのである。本来ならば一般の見学は許さず、まして女、子供を入れるなどいうことは到底不可能なところを佐藤支部長から県電気局長に御話し下さつて置いたおかげで心よく全員が招き入れられ、所長の説明と共に中をみせて貰い、お父様に連れられた子供さん達は大喜びであつた。

三時間程で相模湖に着き、乙葉副支部長の御挨拶や記念撮影風食の後、大型遊覧船を借切つて広さは芦の湖の半分、建設されたばかりの新相模湖を一周、最後に相模原電所の見学である。

三十名、アベック、子供連れ或は若干の独身組など、新宿から借り切りの観光バス三台に分乗して甲州街道を一路西へ向う。車中はいつも黒いつぽい浴衣会とは、うつてかわる色とりどりのはなやかさ。

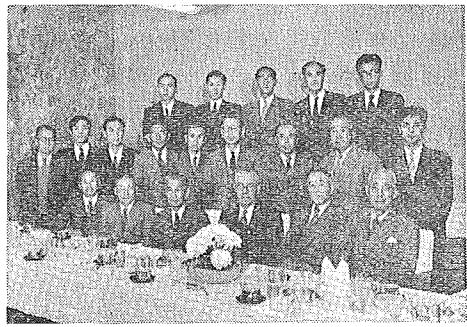
よる神奈川県営相模発電所見学が例年どおりの好天に恵まれた。十一月三日に行われた。

相模発電所見学中の  
第一世第二世  
(松尾三郎喜)

風船と桐の下駄

西村正太郎 大内田敏三  
竹屋 芳夫 豊田 順  
一七 谷村 雾道 浮田 池上 淳  
一一八 近藤 文治 上原 重  
一九 大槻善 三郎 阪口 忠雄  
二一 下村 孝一  
二二 小曾木 正  
二三 二六 中川 正憲 宏正  
二四 八山 正憲

## 九州支部發足



て若い後輩、今は却々辛辣な然し有益な話を貰かせて戴いたり加藤先生が教室委員をしておられた昭和七年頃の就職難のぐち話が会員から出て、それに対する先生の精確な御記憶をたどられた回答が出たり、結成大会に対する祝辭を戴きまして和やかな雰囲気の内に会を終了致しました。

当日の先生の宿舎の隣が明治四五年卒の元九大教授森吉吾先生を先生と浅尾新十郎先生(明治四十二年卒元九水重役)吉田喜久次先生(昭和三年卒富士電機九州支店長)安田(昭和十二年卒九電)と四人で病床をお見舞い致しました。却々顔色も好く寝ておいでに成るとは云えず元氣で、先生の来訪を痛く喜ばれお別れの握手も却々はなされない様な次第でした。

鳥養先生がロータリーでお出でに成つたり岡本先生が大阪変圧器の用件の序にお立寄りに成つたり、大久保先生を川原発電所の水車発電機の調査を、林先生には講演をお願い致しました折などに、博多附近の有志相寄りまして九州でも皆の集りを作つて諸先生の御来訪の折には通知して寄り集り観談したらと話合つておりまして、既に一応不充分ながら名簿も作つておつたのですが、その内洛友会が結成されたニュースを受取致した訳でございます。

遠方におられる方々には業務の支障もあり出席も困難でありましたに不拘、長崎、大分からも出席せられ総員先生を含めて廿一名に及び九州では稀に見る多数の集りでした。

特に御老令の方々の出席を得まし

第六条 本支部に左の役員を置く。  
支部長 一名  
副支部長 二名  
評議員 若干名

第七条 役員は総会で定める。

第八条 支部長は支部業務を統轄し副支部長は支部長を補佐する。評議員は支部長の諮問に応える。

第九条 支部長は本支部の業務を処理する為幹事若干名を委嘱する。

第十条 役員の任期は一年とする。

但し重任を歛げない。

第十二条 会員の会費は年額百円とし本部会費年額三百円と共に会計もつて経理する。

第十三条 会員の会計年度は毎年十月一日に始まり翌年九月三十日に終る。

第十四条 本支部の決算は毎年総会において報告する。

第十五条 本支部会則の改正は総会の決議を経ることを要する。

附 則

本会則は昭和二十八年十月二十六日より実施する。

第一條 本支部は洛友会九州支部と称する。

第二条 本支部の事務所は九電ビル内に置く。

第三条 本支部は会員の親睦を図り当地方の文化の発展に寄与する事を目的とする。

第四条 本支部は前条の目的を達成する為、次の事業を行ふ

一、本部との連絡及協力  
二、支部名簿の整備作成  
三、年一回総会を開く  
四、その他本支部の目的を達成するに必要な事業

第五条 本支部は左の会員で組織す

る。

九州地区に在住する会員

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

本年は三十五周年で十一月十四日に会合。屋は家族同伴。午前は洛北に修学院離宮を、午後は洛南に桂離宮を拜観して、京の秋を満喫した。夜は五条坂つるやで在関西の恩師鳥圭先生、野田先生をお迎えして、悪黨に近いオーレド・ボーアイズの狂騒曲に長い秋の夜は更けた。以外の記事は禁止につき省略。

拜観は乙葉、交通は間崎、夜は佐藤の配慮。千謝万謝。

出席。魚住、佐藤、阿部、加藤、楠本、間崎、乙葉、小杉、工藤。

○大七クラス会

一年生として入学した最初の日、井上先生の時間であつたと記憶するが、クラスの世話役を投票で定める仕事を仰せ付かつて、結局世話役はさせられてしまつた。卒業記念アルバムを作るまで色々のことをやつてきたが、世話役から抜けられずに今日に及んでいる。今度は洛友会東京支部の購読会の世話役ということになつた。

気が弱くて、たのまれたことは断われず、自分勝手なことが言えないのでは、一生世話役で終りそうである。世話役をたくさんしていると、いろいろの意見にぶつかつて、世は様々であることをおいよいよ痛感するが、そのためにますます自分の意見が言えなくなつてしまふらしい。

口君、平井君などを中心に数回集まり、来年春の廿五周年の計画に花をさかせました。上京の節は、小生までは安達、頼野兩君の方へお知らせ下さい。同窓生をあつめて大いに語り合いましよう。東京には右のほか白崎、東、内田、馬淵、村田、飯田の諸君がおります。(久野清)

△世話役△

昭四 久野 清

明	四	三	五	四	四	四	四	四	四	大	五	三	二	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	一	四	佐																												
十九	月	廿	一	日	より	到着の分																					洛友																											
十一	月	廿	一	日	より	到着の分																					会々費領收																											
佐	佐	渋	岡	村	三	河	高	泉	片	浜	閑	松	渡	光	島	山	大	岩	林	西	仙	森	各	保	奥	光	佐	稻	岡	牧	織	山	小	堀	鳥	綿	河	高	石	鈴	小	石	清	水	庄	一	郎							
木	谷	田	川	上	浦	津	島	谷	崎	島	本	部	岡	居	口	山	本	村	石	谷	務	寿	平	野	藤	田	本	田	口	林	養	谷	合	高	橋	木	本	徳	新	尾	ノ	島	喜	久	馬	輔								
純	英	勵	市	軍	竹	倫	兵	正	太	雄	三	兼	次	信	駿	勝	太	弁	甲	一次	康	重	重	虎	脣	四	零	鹿	三	吉	賢	松	十	之	助	長	重	郎	助	郎	重	馬	輔											
羽	安	本	栗	田	多	田	丹	山	東	品	竹	林	嘉	山	岡	今	村	小	間	弘	金	上	大	金	塚	井	宅	岩	本	高	柳	沼	道	尾	崎	道	田	福	井	中	島	吉	川	忠	吉	川	忠	吉	井	宮	一	郎	誠	吉
玉	人	保	珠	璣	大	侃	二	通	年	海	義	胤	秀	孝	三	門	康	次	郎	稳	仙	龍	義	一	德	利	雄	藏	三	夫	憲	義	豐	春	彦	貞	治	正	治	三	郎	謙	三	郎	吉	川	忠	吉	井	宮	一	郎	誠	吉

昭二一五  
九八七六五四三  
林尾萩竹河壹西潮川大戸岡和桂松松青山上青石古公輕河野山中眞鈴木矢内吉加森畔渡路塩太柴八原鶴大智後正富大  
崎沢中野島川見守場山村田田岡井山下田柳堂田文沢本田岡村壁木中野田田藤柳辺次津田田条戸飼島識藤木永久  
千 美哲勝 豊公孝俊信善昌徳重登正 弘健闇久幸三勝二武靖昌亮角正佑久兼一幸安晋 健逸二広兼利 和達  
博完作裁也満藏安吉三芳勝博勝一兵次実之次雄一夫郎寿郎夫元一三市巳二次三薰郎吉彦均吉晃三治郎定則雄博郎  
北市旭篠高北西 川田小増 田中善藤尾石根野上西檜 加北横占岸齋国竹浜野加上山瀬林本広眞熊西答八栗曉山中  
井村原橋川尾 端井野田 村沢積野形川本田西本 横田茂駕田部田藤友下崎口藤林原川 間瀬田谷枝院百本山上山  
太梁恒盛 儉代 一千順亮憲清 亥善規  
宗晴一光勸信 忠保一五三五龜鍊博 民健重 一安三一矩周俊修  
古明景其雄我行 博士一交理准郎二云 邦之微雅郎御詩雄目明里一靈祖去夫郎江濱清一老次

並小池杉坂上氏田鍛谷巴池中瀧片竹三齋香價平吉小小川吉三落茂掘松倉藤水加松皆近河武清石伊前森中和藤殿中  
木田上浦本之原中治村斐田沢山木屋村國藤野砂井田原南西田上木尾内宗野藤石川藤合田野崎地田堀田本并沼  
園健文正野喜知寿不  
敏淳慎親岩輝幸愛三清三芳治秀太揚濱武正光直達價三實正源良久泰耕達光道元孝太悟二保  
博夫一三学佐雄次悦道郎豐磨敬郎夫郎夫郎一昭二彦敏夫武浩三清晃幸郎正治光麌三治治治武彌一生行志郎雄  
畑河角森伊高藤森福珠木浮清伴  
原田本原島井并玖村田水  
松  
寅太克篤泰一次  
寔勇實一郎己亮巖夫吉郎勇康